

景気動向調査

詳細は当社ホームページ (<https://www.fir.co.jp/>)「調査レポート」をご覧ください。

「(山形・秋田)県内企業の景気動向調査」(概要)

① 調査の目的

山形・秋田県内に本社を置く法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しについて調査を行い、景気の動向を把握することを目的とする。

② 調査の方法

すべての質問事項についてDI (Diffusion Index) 値を求める。たとえば、各社の業況を示す「自社の業況DI値」の算出方法は「自社の業況DI値」= (「良い」と回答した企業の割合) - (「悪い」と回答した企業の割合)

③ 調査期間

令和2年11月2日(月)～16日(月)

④ サンプル概要

アンケート対象企業 山形658社、秋田494社
有効回答数 山形408社、秋田355社
回答率 山形62.0%、秋田71.9%

特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
DI \geq 30	30>DI \geq 10	10>DI \geq ▲10	▲10>DI \geq ▲30	▲30>DI

景気の天気図

第65回 山形県内企業の景気動向調査



今期の業況

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							



第38回 秋田県内企業の景気動向調査



今期の業況

	秋田県	県北	中央	県南
全業種				
建設業				
製造業				
卸・小売業				
サービス業				

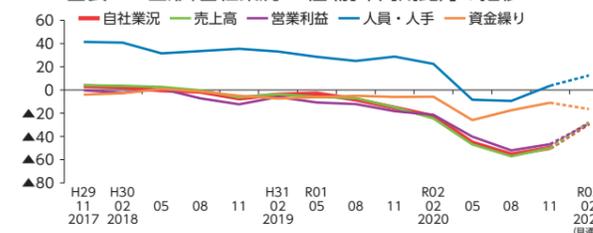


■ 自社業況の動向

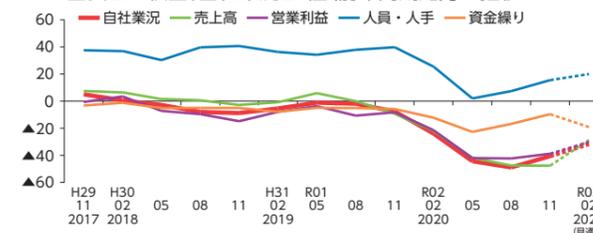
山形県の業況は、「自社の業況DI値 (前年同期比)」が▲49.8 (前回調査比5.7ポイント上昇) と**6期ぶりの改善**となった。「各種DI値 (前年同期比)」をみると、「売上高」「営業利益」は7期ぶりの改善、「資金繰り」は2期連続の改善となり、「人員・人手」は4期ぶりにプラス幅が拡大した。

秋田県の業況は、「自社の業況DI値 (前年同期比)」が▲40.6 (前回調査比8.3ポイント上昇) と**6期ぶりの改善**となった。「各種DI値 (前年同期比)」をみると、「売上高」が小幅ながら悪化となった一方、「営業利益」と「資金繰り」は改善し、「人員・人手」はプラス幅が拡大した。

図表1 山形「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表2 秋田「自社業況DI値(前年同期比)」の推移

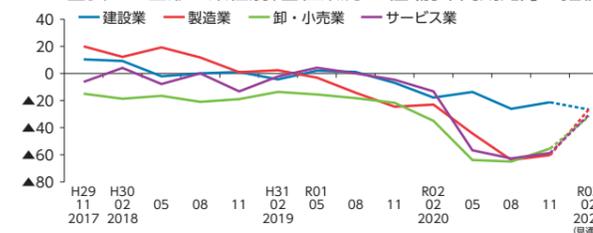


■ 業種別の動向

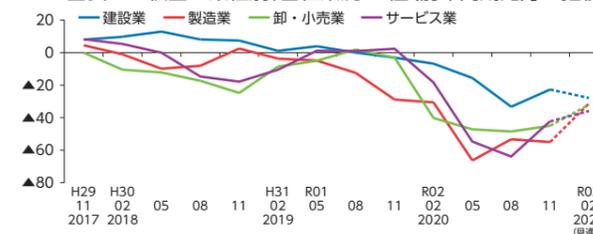
山形県の業況 (前年同期比) を業種別にみると、**4業種すべてで改善**となったものの、建設業を除く3業種で低水準での推移が続いている。製造業は3期ぶり、卸・小売業は7期ぶり、サービス業は6期ぶりの改善となった。

秋田県の業況 (前年同期比) を業種別にみると、**製造業で悪化したものの、建設業、卸・小売業、サービス業で改善**となった。建設業は6期ぶり、卸・小売業は5期ぶり、サービス業は4期ぶりの改善となった。

図表3 山形・業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表4 秋田・業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移

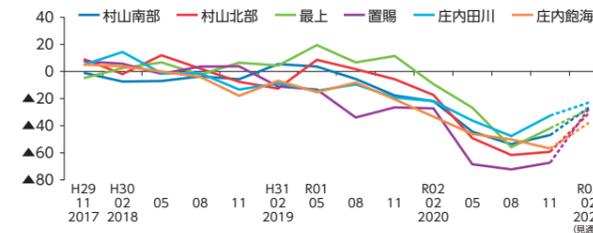


■ 地域別の動向

山形県の業況 (前年同期比) を地域別にみると、**庄内飽海で悪化したものの、その他の5地域で改善**となった。庄内飽海では5期連続で悪化となったが、村山南部は7期ぶり、村山北部は6期ぶり、最上と置賜は4期ぶり、庄内田川は5期ぶりの改善となった。先行きは、すべての地域で改善が見込まれている。

秋田県の業況 (前年同期比) を地域別にみると、**県北は5期ぶり、中央は6期ぶり、県南は7期ぶりの改善と、3地域すべてで改善**となった。先行きは、県北で悪化が見込まれる一方、中央と県南では引き続き改善が見込まれている。

図表5 山形・地域別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表6 秋田・地域別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



消費動向調査

詳細は当社ホームページ (<https://www.fir.co.jp/>)「調査レポート」をご覧ください。

「(山形・秋田)県内家計の消費動向調査」(概要)

- 調査の目的** 山形・秋田の県民の暮らし向きについての現状と見通しを時系列的にとらえるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。
- 調査の方法** 専属モニターを対象とした郵送およびインターネットによるアンケート調査
- 調査の対象者** 山形・秋田の県内に在住するサラリーマン(勤労者)世帯(世帯人数2名以上)
- 調査期間** 令和2年12月1日(火)～14日(月)

山形	モニター世帯数：254世帯
	有効回答数：238世帯
	回答率：93.7%
秋田	モニター世帯数：238世帯
	有効回答数：224世帯
	回答率：94.1%

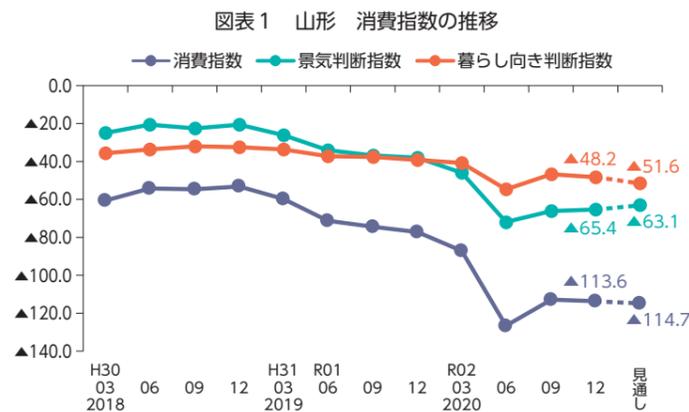
消費指数

第58回 山形県内家計の消費動向調査

～消費マインドはほぼ横ばい、先行きは依然として慎重姿勢～

消費指数は、▲113.6（前期比0.7ポイント下落）とほぼ横ばいとなった。内訳をみると、景気判断指数は▲65.4（前期比0.9ポイント上昇）、暮らし向き判断指数は▲48.2（前期比1.6ポイント下落）と、景気判断指数は小幅ながら改善した一方、暮らし向き判断指数は2期ぶりに悪化した。

今後の見通しは、▲114.7（今回調査比1.1ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。内訳は、景気判断指数が▲63.1（今回調査比2.3ポイント上昇）と改善の見込みながら、暮らし向き判断指数は▲51.6（今回調査比3.4ポイント下落）と悪化が見込まれている。

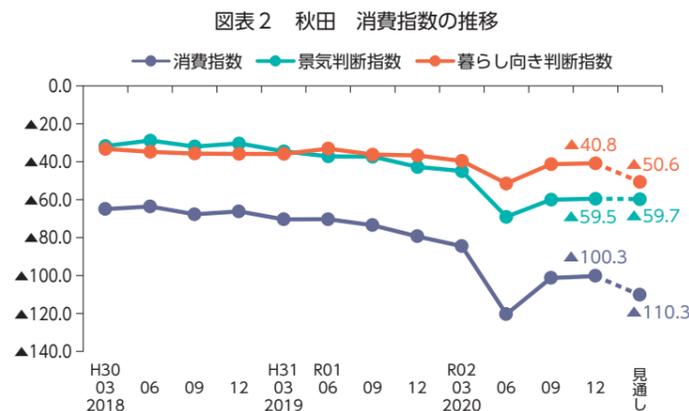


第38回 秋田県内家計の消費動向調査

～消費マインドは足踏み状態。先行きは依然として慎重な見通し～

消費指数は、▲100.3（前期比1.0ポイント上昇）と2期連続で改善したものの、改善幅は小さく、依然として大幅なマイナスとなった。内訳をみると、景気判断指数は▲59.5（前期比0.5ポイント上昇）、暮らし向き判断指数は▲40.8（前期比0.5ポイント上昇）と、いずれも小幅ながら2期連続での改善となった。

今後の見通しは、▲110.3（今回調査比10.0ポイント下落）と悪化の見通しとなっている。内訳は、景気判断指数が▲59.7（今回調査比0.2ポイント下落）と横ばい圏内の動きが見込まれる一方、暮らし向き判断指数は▲50.6（今回調査比9.8ポイント下落）と悪化が見込まれている。



【指数の見方】

消費指数は景気判断指数（景気・雇用環境・物価の3項目で構成）と暮らし向き判断指数（世帯収入・保有資産・お金の使い方・暮らしのゆとりの4項目で構成）の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

景気と暮らし向き

景気判断

山形の景気判断指数は▲65.4（前期比0.9ポイント上昇）と小幅ながら改善となった。景気判断指数を構成する3つの指数については、「景気（県内）」がほぼ横ばい、「雇用環境」は2期ぶりの悪化、「物価（日用品）」は3期ぶりの改善となった。

秋田の景気判断指数は▲59.5（前期比0.5ポイント上昇）と小幅ながら2期連続で改善した。指数を構成する個別指数でみると、「景気（県内）」と「雇用環境」が2期ぶりの悪化となった一方、「物価（日用品）」は2期連続の改善となった。

暮らし向き判断

山形の暮らし向き判断指数は▲48.2（前期比1.6ポイント下落）と2期ぶりの悪化となった。暮らし向き判断指数を構成する4つの指数については、「保有資産」「お金の使い方」「暮らしのゆとり」がほぼ横ばい、「世帯収入」は2期ぶりの悪化となった。

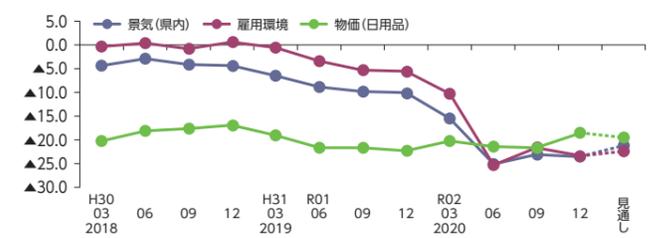
秋田の暮らし向き判断指数は▲40.8（前期比0.5ポイント上昇）と小幅ながら2期連続で改善した。指数を構成する個別指数でみると、「世帯収入」と「保有資産」が2期ぶりの悪化となった一方、「お金の使い方」と「暮らしのゆとり」は2期連続の改善となった。

家計収支

山形の収入面では可処分所得（収入の手取り額）が444千円と前年同期比で26千円の増加となり、支出面では支出合計が418千円と前年同期比で3千円の増加となった。この結果、平均消費性向（家計支出／可処分所得）は94.1%と、前年同期に比べて5.2ポイントの低下となった。

秋田の収入面では可処分所得（収入の手取り額）が403千円と前年同期比で94千円の減少となり、支出面では支出合計が391千円で前年並みとなった。この結果、平均消費性向（家計支出／可処分所得）は97.1%と、前年同期に比べて18.4ポイントの上昇となった。

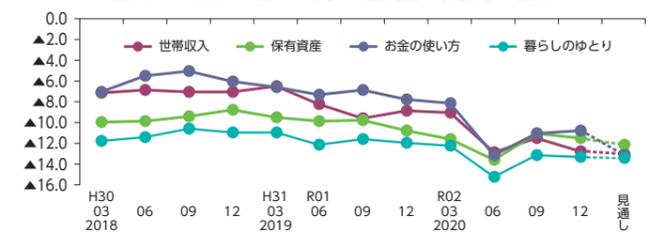
図表3 山形 景気判断指数(内訳)の推移



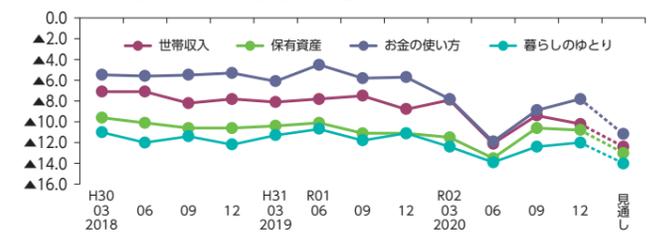
図表4 秋田 景気判断指数(内訳)の推移



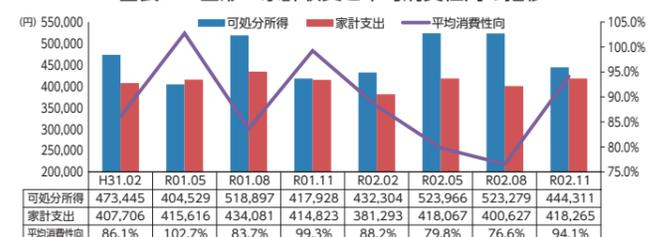
図表5 山形 暮らし向き判断指数(内訳)の推移



図表6 秋田 暮らし向き判断指数(内訳)の推移



図表7 山形 家計収支と平均消費性向の推移



図表8 秋田 家計収支と平均消費性向の推移

